

私達の暮らしを支える税金について

矢板市立片岡中学校 3年 小野 琴未

私には横浜に住む祖父母がいる。祖父母に会ったのはもうかれこれ一年以上前になる。本当は直接顔を見せてあげたいのだがコロナの影響で今はそれが出来ない。

祖母はもともと足が悪く杖をついて歩くのがやっとだったが、昨年転倒し骨折した事で歩行困難となり「要介護」の状態になってしまった。祖父は家事全般をこなしながら祖母の面倒をみていたが、肉体的にも精神的にも限界になってしまったのだ。これには娘である母も相当悩んでいた。いかんせん私の住む矢板市と横浜市は距離が遠すぎる。車でも三時間かかるのですぐに駆けつける事が出来ない、まして今はコロナ禍。

そんな中、今年の春先に転機がおとずれた。祖父が役所へ相談に行き、介護サービスを受けれるようになったのだ。自宅で歩行訓練をしたり入浴介助を行ってくれるというものだ。また車椅子や電動ベッドなどの介護用品も少ないレンタル料で利用させてもらえる事になった。これを聞いた時、私と母は心からホッとして喜んだ。介護の問題は突然やってくる。誰もが初めはどこにどう相談したらいいのかも分からないものだ。

人生には色々な事が起きる。若くて健康なうちは働いて得られる収入が十分なら不自由はないかもしれない。しかし多く人は年齢を重ねていけばやがて年金をもらい生活するようになる。そして祖母のように介護が必要な場合だ。現役世代の人でも病気や予期せぬ事故で働けなくなる事だってあり得るだろう。そんな時でも私たちの暮らす日本では安心して生きていける充実した社会保障制度がある。とても頼もしい事だ。しかし現在、社会保障費が年々増加の一途を辿っていることが問題となっている。少子高齢化の影響だ。一方で社会保険料収入は横ばいであるため、足りない部分を賄っているのは「税金」だ。この事は決して忘れてはならない。私は中一の夏休みに宿題として税の作文を書いてから税に興味を持つようになった。ちなみに国税庁HPの、「税の学習コーナー」は最新の統計資料と共にわかりやすく税の仕組みや問題が説明されているので特によく見ている。

私達の暮らしは税金によって支えられている。特に今年の夏はコロナをはじめ、豪雨による河川の氾濫や土砂崩れ等の災害が多く起きてしまった。このような災害が起きた時、救急、消防、警察、医療そして道路整備全て税金で賄われている。災害のニュースをみながら母は言った。「毎年税金の納付書がくると愚痴りながら支払っていたけど、こうして必要な所に大切に使われるんだから納税しなきゃね。」今はe-TAXといって簡単な手続きで自宅に居ながら納税出来るシステムもありコロナ禍では大変有難い。私も今のうちから税に対する理解を深め、社会人になったらしっかり納税の義務を果たしていきたいと思う。